

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年（コース）	1学年 （選択必修）
使用教科書	教育出版「音楽Ⅰ Tutti+」				
副教材等	全音楽譜出版社「たのしい二重奏曲集 アルトリコーダーテキスト」				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成します。 ① 自己を知り、他者を尊重する思いやりの心を育成します。 ② 自らの進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿勢を育成します。 ③ 自己の住む地域を知り、地域に貢献し、リーダーとなり得る能力を育成します。 ④ 自ら学び、自ら考え判断し行動できる力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行います。 ① 人権教育、同和教育を計画的に、教科横断的に実施するとともに、日頃からグループ学習などで生徒同士の関わりを大切にします。 ② 多様な進路希望を実現するため、基礎学力の定着やキャリア教育の充実を図り、生徒が主体的に学ぶ進路学習に取り組みます。 ③ 地域と連携しながら、ひと・文化・産業などについて深く学び、他者と協働し発展的な思考を育てる活動を行います。 ④ 「わかる授業」の実践に努め、生徒の学習意欲向上と主体的・対話的で深い学びの実践活動を行います。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 指導の重点

歌唱では発声・呼吸法を習得し、歌詞や曲想に関心を持たせイメージをもって歌う学習を目指す。 器楽ではアルトリコーダーやキーボードに触れ基本的な奏法を身に付け、表現する喜びを味わう学習を目指す。 鑑賞では様々な音楽文化に対する理解を深める。楽典や創作では表現活動する上で必要な楽譜に関する基本的な知識を身に付け、簡単なコードを用いた創作ができるようにする。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚しそれらの働きを感受しながら歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価規準と評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	上記の観点を踏まえ、 ・実技テスト ・授業中の表現技能の観察 ・レポートやプリント課題等の提出物の内容の確認 などから、評価します	上記の観点を踏まえ、 ・実技テスト ・授業中の表現工夫の観察 ・レポートやプリント課題等の提出物の内容の確認 などから、評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・授業への取組の観察 ・レポートやプリント課題等の提出物の取組状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	オリエンテーション	プリント	年間学習及び評価基準の説明 音の高さと長さ、リズム打ち	6	・授業への取組の観察
	楽典・鍵盤				
5	アルトリコーダー	アルトリコーダー テキスト	基本奏法習得 簡単な曲に取り組む	8	・授業中の表現技能や工夫の観察
6	歌唱	校歌 優しいあの子	音程リズム、拍子を正しく理解する	7	・提出物の内容の確認
7	歌唱	少年時代			
	実技テスト		実技テスト	1	実技テストの分析
8	創作	プリント	音程、音階、調性 簡単なコードと作曲 （創作活動）	10	・授業への取組の観察
9	楽典 歌唱				
10	歌唱	日本歌曲	歌詞の内容、曲想に合わせた発声を工夫する。旋律、速度、強弱を知覚し、表現を考える。	5	・授業中の表現技能や工夫の観察 ・提出物の内容の確認
	アンサンブル	いつも何度でも 他	リコーダー・キーボードによる アンサンブルに取り組む	8	
11	実技テスト		実技テスト	1	実技テストの分析
12	歌唱	イタリア歌曲	イタリア語の発音の特徴をとらえ、歌詞の内容をつかむ	4	・授業への取組の観察 ・授業中の表現技能や工夫の観察
1 2 3	アルトリコーダーと鍵盤	Happy birthday to you 上を向いて歩こう	コードとメロディーで役割やハーモニーを楽しむ	6	・提出物の内容の確認
	鑑賞	西洋音楽	西洋音楽の歴史とそれぞれの時代の特徴を理解する	4	レポートの内容確認
	実技テスト		実技テスト	1	実技テストの分析
	鑑賞	日本音楽	日本音楽の歴史とそれぞれの時代の特徴を理解する	3	レポートの内容確認

|

PI UT 时间 (分钟)

|

7 課題・提出物等

楽典はプリント課題（解いて提出）

実技は授業内での確認テスト及び各学期末に実技テスト

鑑賞はレポートの提出

8 担当者からの一言

技術を習得するには何度も繰り返し練習が必要です。

最後まであきらめずに一生懸命取り組んでください。